



音楽鑑賞

私は、もともと楽器演奏や歌うことが好きで、大学卒業後に新任教員として赴任したとき、担任学級で音楽の授業をすることを楽しみにしていました。初めての担任学級は元気な2年生で、「この子供たちに自分が歌を教え、器楽を指導し、楽しい音楽の授業を作るんだ。」と意気込んでいました。しかし、現実には厳しいものでした。

赴任してから暫くの間は、初めて教壇に立つ未熟さと緊張感で右往左往しながら、無我夢中で過ごしていましたが、3ヶ月ほど過ぎた夏休み間近のある日、音楽で歌唱教材を扱っていたとき、子供たちのつまらなそうな表情をいつも以上に強く感じ、改めて自分の音楽の授業を振り返りました。

元気な子供たちのはずが、それまでも音楽の時間はなぜか暗くどんよりとした雰囲気、子供たちにとって「楽しくない」のではないかと感じていました。私は音楽が好きはなはずで、その私が音楽を教えているのに何故なのか。悩む日々が続きました。それまでも、歌いながら身体表現を取り入れたり、歌詞の意味や背景を丁寧に説明したり、ペアで歌わせたり、鍵盤ハーモニカの指使いを丁寧に指導したり等々……。指導法に関する本を参考にしたり先輩教員に聞いたりもしながら、自分なりに力を入れて音楽の授業に取り組んでいましたし、その後も、発声や演奏技術等、子供たち個々の技能を伸ばすための指導にも努めました。しかし、なかなか子供たちの意欲にはつながりませんでした。

そんなある週末のこと。当時は独身で借家に一人暮らしでしたが、くたくたになって帰宅し、夕食を済ませてから、静まりかえった部屋でぼんやりしていたとき、あることに気付きました。教員になるまでは、一人の時にはいつも音楽を聴いていたのに、その部屋にはテレビが1台あるだけで、音楽を聴くことを全くしていなかったのです。実家の私の部屋は楽器だらけでレコーディング機材もあり、何よりもオーディオ関係が充実していました。好きな音楽のレコードやカセットテープ、当時普及し始めていたCD等、常に音楽を聴きながら過ごしていました。私が音楽を「楽しい」「いいものだ」と感じて好きになったのは、「音楽を聴いたから」に他ならなかった、そんな当たり前のことを忘れていたのです。血眼になって様々な指導法を試しては子供たちを追い込むだけで、音楽の良さを伝えることができずしてしまいました。

※裏面に続く

..... 切り取り線

子供たちのための、意見・提案・要望・校長に知らせたいこと など

2022年9月30日 ()年 ()組 児童氏名

※匿名でも結構ですが、御連絡が必要な場合等を考え、記名していただけるとありがたいです。

※担任に御提出いただいても、校長室前のポストに直接入れていただいても、校長に直接手渡していただいても、いずれでも結構です。

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp (校長直通)

その後、実家からオーディオ機器を運び、借家にも教室にも設置し、以後、音楽の授業や朝の時間等に「音楽鑑賞」を始めました。有名なクラシックの曲を中心に、ロックやジャズのスタンダードナンバーも織り交ぜながら、多くの曲を高音質で鑑賞させました。鑑賞前に簡単な説明を物語風に用意し、鑑賞後には感想を短文やイラストで表現させながら、年間200曲ほど鑑賞しました。

子供たちは、毎回目を輝かせながら聴き入り、その都度、一曲毎に一枚、私が用意した曲や作曲者についての説明（物語風）を記入し、短いながら自分なりに考えた感想文を書き、感じた印象などを基にイラストを描くという作業に集中して取り組み、ファイルに綴じていきました。

鑑賞によって、音楽の授業にも変化が出てきました。教材の楽曲について鑑賞した曲と比較して話題にしたり、鑑賞することで得た感動から「歌いたい」「演奏してみたい」という意欲を持つようになったり等、音楽の授業に楽しそうに前向きに取り組む姿が見られるようになりました。さらに、鑑賞した曲がテレビのコマーシャルなどで使われていると、その曲や作曲者について親に得意気に話したり、お気に入りの作曲家について詳しく調べたり、お小遣いを貯めてCDを買ったり等、音楽を身近に感じて、日常的に音楽に親しむ様子も見られるようになりました。

音楽の良さやすばらしさは、私（一小学校教員）が教えることではなく、バッハや、ベートーヴェンや、シューベルトや、モーツァルトや、ポール・マッカートニーや、ステイービー・ワンダーや、滝廉太郎や、・・・・・・・・・・が教えてくれるものであり、鑑賞によって芽生える意欲や興味関心の上に、小学校の発達段階に応じて必要な知識や技能を学ぶ、そのお手伝いをするのが、小学校教員である私の役割であることに、そのときやっと気付きました。鑑賞曲の選択については、長い時を経て評価されてきたクラシックやスタンダードから、より幅広く多様なものを選んで与えるように心掛けました。

音楽に限らず、絵画やその他の芸術、体験的な活動、道徳的な価値観や行動等、あらゆる面において、子供たちには「良いもの」や「良いこと」に数多く触れさせることが大切です。良いものを与えれば、悪いものを見せる必要はありません。良いものさえ与えていけば、わざわざ悪い例を見せて比べなくても、善し悪しは自ずと分かってくるものです。だからこそ、何を与えるかが重要です。

このことを改めて肝に銘じながら、職員と力を合わせて、今日の前にいる郡山小学校の子供たちにより良いものを与えることができるよう、日々努力して参ります。